

子育てアドバイザー（ラジオパーソナリティ）金子耕式氏が

保護者に贈る とっておきの話

子育てトーク No. 11



◆◆◆◇ 愛することと甘やかすことの違い ◇◆◆◆

子どもを大切に思うなら、愛することと甘やかすことの違いを、しっかりよく理解しておく必要があるでしょう。

子ども達は、保護者から愛されていると感じる時、心が満たされて情緒が安定します。そして、自分の生まれつきの能力を充分発揮できるようになります。一方、保護者が愛情を持って育てているつもりでも、子どもが常に欲求不満を感じて問題行動を起こしたり、やる気を失ったりするケースをしばしば目にします。その大きな原因のひとつは、「保護者の甘やかし」です。ここで、愛情を注ぐことと甘やかすことの違いを、具体例をあげながら説明しましょう。まずは甘やかしの具体例です。

C「ねえ、新しいゲーム買ってよ！」 P「えー?! こないだ買ったばかりでしょ!」

C「だってもう飽きちゃったんだもん」 P「まったくしょうがないわねー」

C「ねー、お母さん、おなか空いた!」

P「あら困ったわー、まだ夕食まで30分はかかるわ。じゃあ、お菓子でも食べていてね!」

C「ねえ、この靴、はきにくいよ!」

P「あら、靴のひもが緩んでるじゃない、お母さん結び直してあげるね〜」

さて、何が問題かお分かりですか。

甘やかしとは、何でもすぐに叶えてしまったり、簡単に物やお金を与えたり、子どもに代わって保護者が何でもしてしまったりすることです。また、障害になっているものを、保護者が何でも取り除いてしまうことです。保護者としては、子どもに精一杯愛情を注いでいるつもりかも知れませんが、これでは大切なお子さんが、自制心も忍耐力ももたない人間になってしまいます。

では、甘やかすことなく愛情を注ぐにはどうしたらよいのでしょうか。例をあげてみましょう。

C「ねえ、お母さんは、子どもの頃どんなことして遊んだの?」

P「いろんなことして遊んだよ! そうだ、おかしお母さんが大好きだった遊びを教えてあげるから、一緒にやってみようか?」

C「ねえ、おなか空いちゃった!」

P「あらー、でももう少しだから我慢してね! そうだ、○○ちゃんも手伝ってくれる? そうしたら少し早くできると思うんだ」

C「ねえ、お母さん、洗濯物うまくたためないよ〜」

P「あら、偉いね! 自分でたたんでるのね! じゃあ、教えてあげるから一緒にやってみようね!」

さあ、いかがですか? 違いが分かりますか。時間をかけて子どもの話に耳を傾け、必要なときはやり方を教え、子どもの努力や能力を上手に引き出してやるのです。こんな保護者がそばにいてくれるなら、子どもは「自分は愛されている!」と感じるのです。



この紙面は、下府中小学校PTA家庭教育講座として、連載をいただいています。